History of Banei Racehorse

～名馬のルーツを知ろう～

二世ロッシーニ
Rossini II
1966年生 青毛
北海道 音更町産

History of Banei Racehorse
～名馬のルーツを知ろう～

推し馬のおじいちゃんは？ひいおじいちゃんは？３代、４代さかのぼると全くわからないことが多いばん馬たち。ばん馬の基礎を築いた品種と、現在の活躍馬のルーツとなる種雄馬を紹介します。

ばん馬とはどんな馬か？

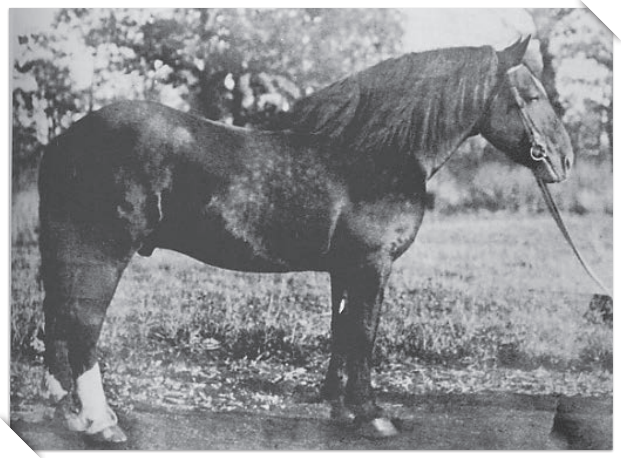
ばんえい競馬で走る馬、「ばん馬」はどんな馬か――現在ばんえい競馬に出走している馬は、もとは運搬や農林業で使役されていた重種といわれる大型馬です。ばんえい競馬黎明期の頃は、使役している馬を転用していました。

モータリゼーションが進み、ばんえい競馬が興行として盛んになると、重種馬は競馬に使うことを主な目的として生産されるようになりました。

ばん馬は主に３つの品種を元に改良を重ねられています。

・ペルシュロン種（フランス原産）
・ブルトン種（フランス原産）
・ベルジアン種（ベルギー原産で北米で改良）

他品種の導入を試した時期もありましたが、この３品種の混血が進み、平成15年以降「日本輓系種」という新たな品種として扱われるようになりました。地方競馬情報サイトの馬情報で馬名の右側に記載されている（日輓）とはこの「日本輓系種」の略です。平成15年までばん馬に使われていた半血という名称は、現在は文字通り半分の血、純血種同士の交配による産駒に使われています。



ばん馬の祖ペルシュロン種のイレネー号。
サラブレッドでいうところの三大始祖のような存在

ばん馬の改良の歴史は、明治末期にペルシュロン種の導入からはじまりました。ばん馬の始祖と言われるイレネー号は明治43年に購入され、44年より供用開始。これはサラブレッドの導入とほぼ同時期です。また、第二次世界大戦前はペルシュロン種と並んで中間種と呼ばれるトロッター種やアングロノルマン種なども大いに輸入されていましたので、８～９代とさかのぼればトロッターやアングロノルマンの混じったばん馬もたくさんいます。とはいえ、サラブレッドなどの軽種馬を除く品種は、５代にわたって同一種を掛け合わせるとその品種として登録されます。また特徴もほぼ消えていくので、今のばん馬たちにトロッターやアングロノルマンの影響はほとんど見られません。

戦後、アングロノルマン、トロッターに代わって導入されたのがブルトン種です。生育が早く、肉付きが良く、温和で従順ということで、1950～60年代におもな輸入先であったフランスで最も普及していた重種です。生産頭数が多く、選べる馬の質も高かったので戦後さかんに輸入されました。ばん馬の早熟化、スピード化に寄与した品種です。

1970年代に入って、アメリカからベルジアン種が持ち込まれました。ベルジアン種は持ち込まれた種雄馬が大型で近親交配の強い馬だったので、その特質をよく産駒に伝えて大成功を収め現在に至ります。

この他、ばんえい競馬が盛んになると、クライスデール種、アルデンネ種など色々な品種の導入が試みられましたが、成功していません。

また戦前から一貫して重種改良の主流であり続けたペルシュロン種ですが、1970年代以降に輸入されたペルシュロン種には、事実上別品種の馬もいます。というのもペルシュロン種の原産国フランスでは地方品種の衰退が著しく、1960年代に品種の統合が行われていて、マイエンネ、ニヴェルネ、オジェロンという近いエリアの品種がペルシュロン種に吸収されているのです。この中のマイエンネは、大柄で日本人の求める条件に合っていたため、1970年代以降輸入された馬には、マイエンネ系のペルシュロンが多くいます。

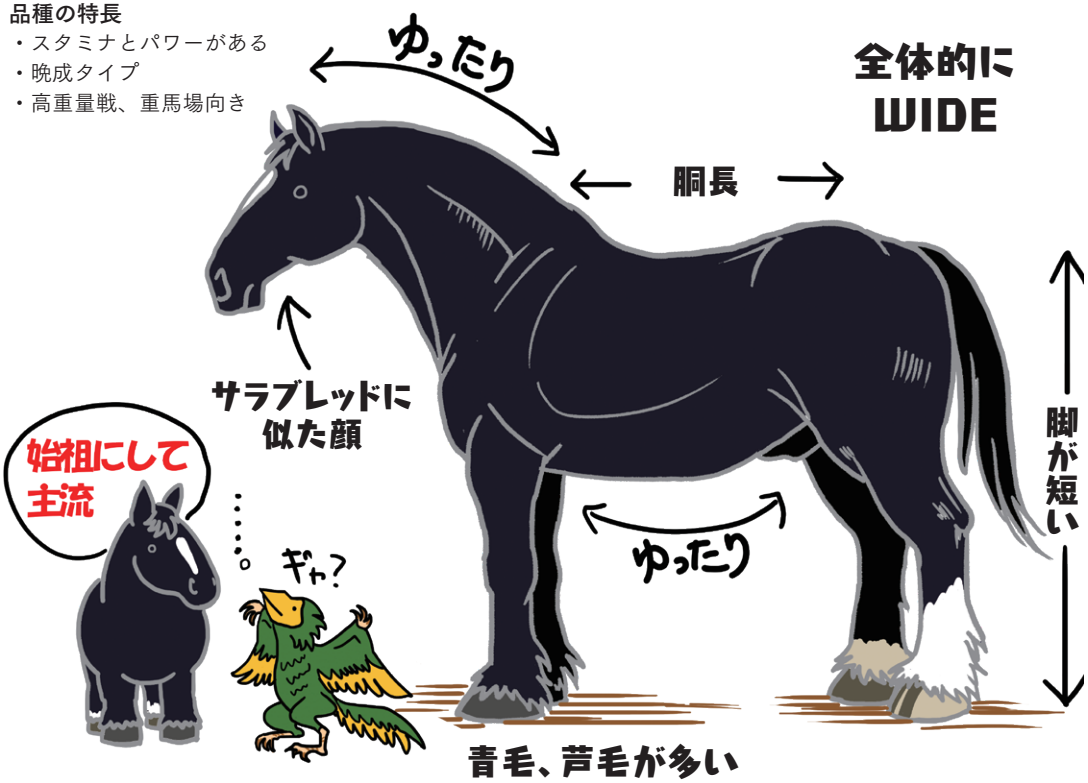
少しこだわって言うと、ペルシュロン種、マイエンネ系ペルシュロン種、ブルトン種、ベルジアン種を幾重にも混ぜ合わせ作り上げられた馬が、現在私たちが帯広競馬場で応援しているばん馬のスタンダードです。

ペルシュロン種　ブルトン種　ベルジアン種

パワーとスタミナを誇る
ばん馬の始祖

ペルシュロン種

品種の特長
- スタミナとパワーがある
- 晩成タイプ
- 高重量戦、重馬場向き



ペルシュロン種の代表的な種雄馬

二世ロッシーニ
1966年生　青毛　北海道　音更町産
血統登録馬数:527頭　種雄馬登録数:62頭

ばんえい界のレジェンド種雄馬です。雄大な馬格で、生産者が好んだ青毛だったため、供用初年度から人気を博して数多くの産駒を残しました。

晩成と言われるペルシュロン種にしては珍しく、産駒は早熟で2歳リーディングを3回獲得し、イレネー記念馬を5頭輩出しています。また成長力にも優れ、古馬になって大成する馬も数多く出しました。代表産駒の筆頭、キンタローはばんえい記念を3勝し、初の獲得賞金1億円馬となりました。二世ロッシーニは万能の種雄馬で、産駒は仕上がりが早く成長力もあり、パワーとスピードを兼ね備えていました。

今に伝わる二世ロッシーニの血

1億円馬と二世ロッシーニ

獲得賞金1億円馬	父馬名
キンタロー	**二世ロッシーニ**
タカラフジ	タカラコマ
ヒカルテンリュウ	**マツノコトブキ**
アサギリ	リウリキ
マルゼンバージ	マルゼンストロングホース
フクイチ	**マツノコトブキ**
スーパーペガサス	**ヒカルテンリュウ**

ばんえい競馬では獲得賞金が1億円を超えた馬を「1億円馬」と称えます。現在7頭いますが、このうち、4頭が二世ロッシーニ系です。この父系は高重量戦に適性があるようで、高額賞金レースであるばんえい記念や帯広記念と相性が良いのです。2019年のばんえい記念ではウンカイ産駒が1～4着を独占しています。

二世ロッシーニ産駒の数多い種雄馬の中で、最も成功した馬が**マツノコトブキ**です。全兄（同じ父母の兄）は名競走馬のハヤホマレで、馬格に優れたマツノコトブキは兄を超える活躍が期待されていました。しかし蹄を患いデビューすることなく種雄馬となります。競走馬にはなれませんでしたが、種雄馬として大成し父を上回る成績を残しました。近年のばんえい競馬ファンには**ウンカイ**の父と言うと、「ああ！」とお分かりいただけるかと思います。

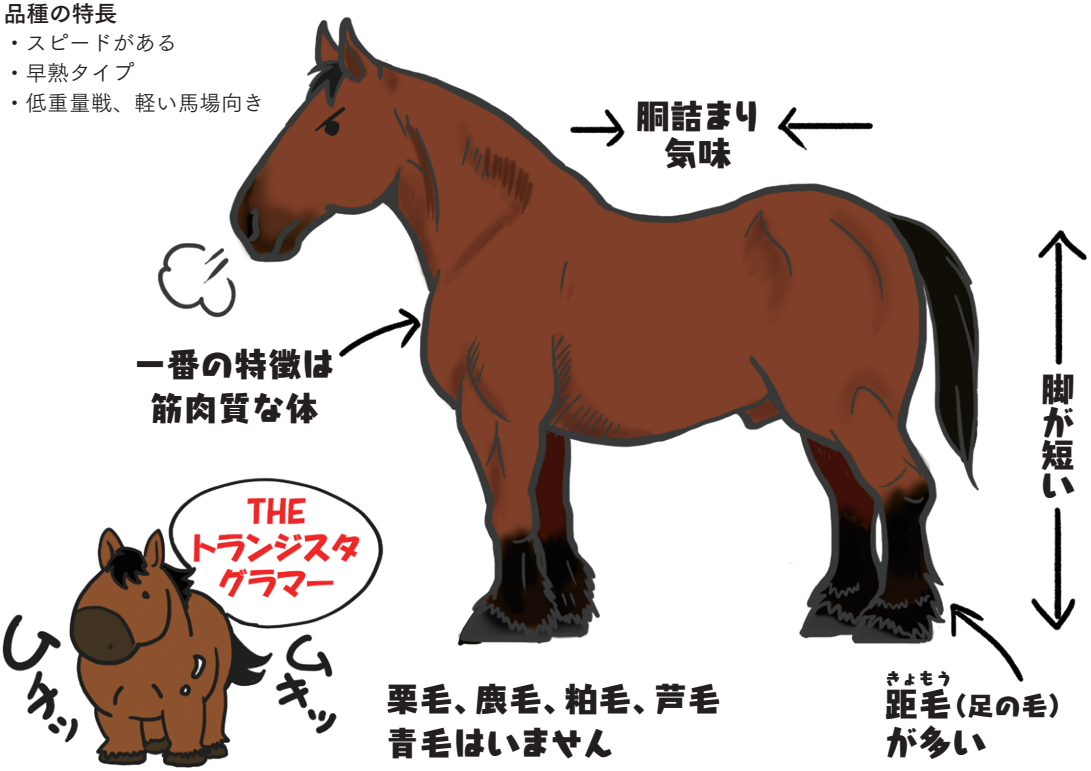
二世ロッシーニ～**マツノコトブキ**～**ウンカイ**の系譜は、ばんえい競馬史上最強の父系です。サラブレッド競走馬におけるHalo～サンデーサイレンス（USA）～ディープインパクトのような偉大な父系と言えます。

ウンカイは、1997年の3歳世代重賞の3冠馬です。競走馬として素晴らしい名馬ですが、それ以上に種雄馬としても大成功しました。オレノココロ、センゴクエース、コウシュハウンカイ、フジダイビクトリー…。産駒の活躍は記憶に新しいところです。そしてコウシュハウンカイ、フジダイビクトリーは種雄馬として期待され、多くの産駒に恵まれています。二世ロッシーニの父系は今後も発展していくでしょう。

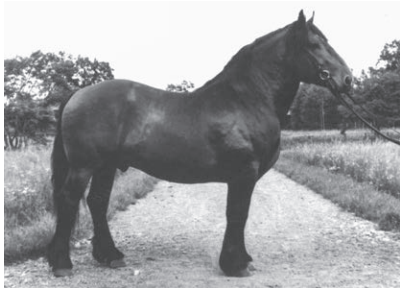
仕上がり早く世代戦向き

ブルトン種

品種の特長
- スピードがある
- 早熟タイプ
- 低重量戦、軽い馬場向き



ブルトン種の代表的な種雄馬

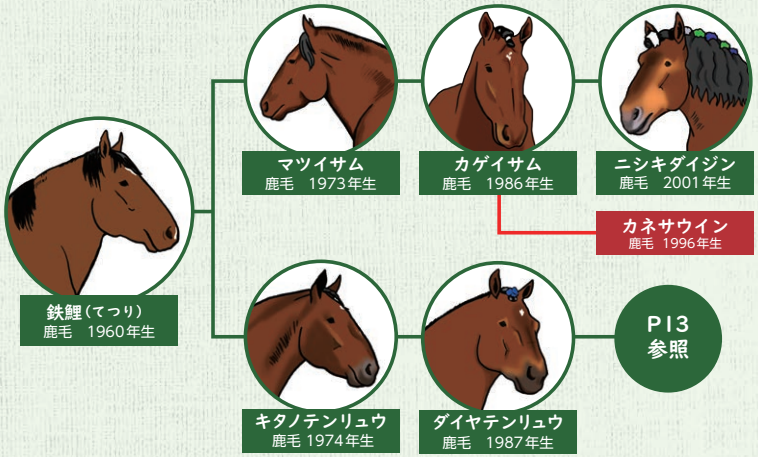


鉄鯉（てつり）
1960年生　鹿毛　北海道　音更町産
血統登録馬数：170頭　種雄馬登録数：41頭

鉄鯉は十勝種畜牧場（現在の家畜改良センター十勝牧場）の生産馬です。父母は仏国産で、国が推進する家畜改良のために輸入された馬です。母が大柄な馬で、鉄鯉もそれを受け継ぎブルトン種としては大きく、１トン近い馬格がありました。産駒は闘争心があり競馬に前向きな馬が多かったそうです。

品種の特長どおり早熟で、世代戦と軽重量戦に向く産駒が多かったのですが、民間で供用されるようになった種雄馬晩年に、ばんえい記念を７歳で制したダイケツを出しました。ダイケツと同年に代表産駒の１頭、名種雄馬キタノテンリュウも生まれています。

今に伝わる鉄鯉の血



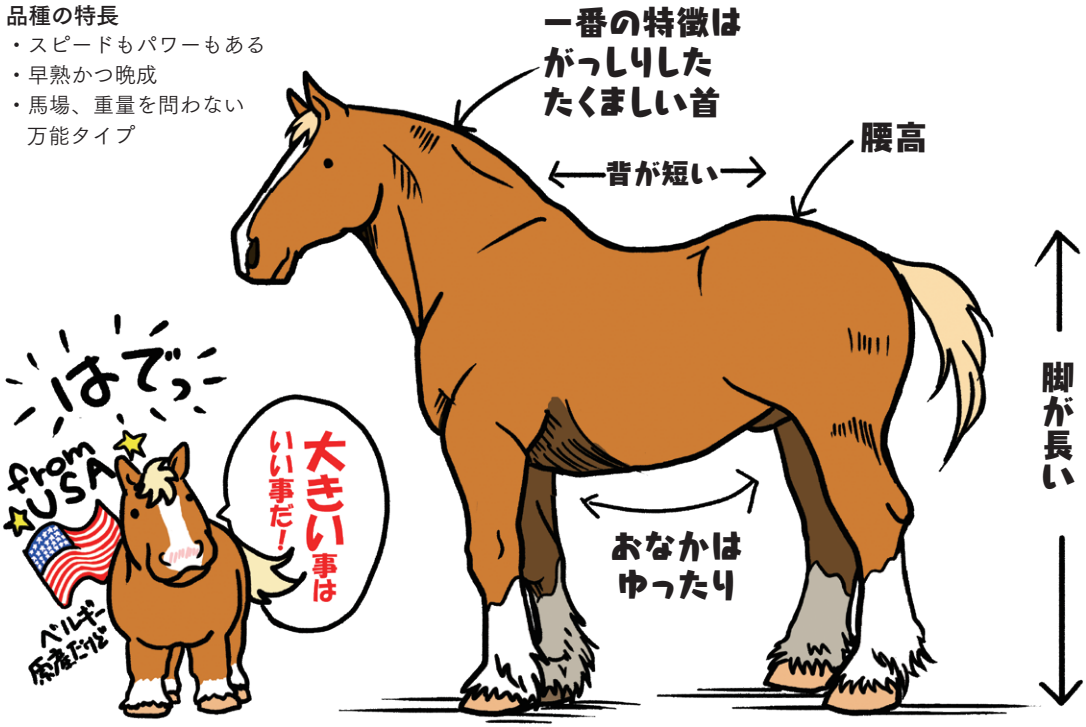
ブルトン種はペルシュロン種やベルジアン種より体格が小柄なため、ばん馬の大型化が進むとともに主流から外れていたのですが、鉄鯉の系統は健在でした。主に**キタノテンリュウ**と**マツイサム**という２頭の名種雄馬を通じて現在のばん馬たちにその血を伝えています。そして近年レースのスピード化にともない、鉄鯉の系統はさらに影響力を増しています。

マツイサム～**カゲイサム**～**ニシキダイジン**からは、メジロゴーリキ、コウシュハレガシー、ゴールデンフウジンなどの活躍馬が出ています。また、カゲイサムは母の父としても優秀で、産駒の**カネサウイン**は、ばんえい記念２勝のカネサブラック（キングフェスタの父）、名種雄馬カネサテンリュウ（キタノユウジロウの父）兄弟を産んでいます。

キタノテンリュウはばんえい菊花賞を制した名馬で、種雄馬として成功した鉄鯉の代表産駒です。その最高傑作が、年度代表馬となり名種雄馬として一時代を築いた**ダイヤテンリュウ**です。その系譜から現在のスターホースが数多く出ています。（13ページ参照）。ダイヤテンリュウの系統はスピードが豊かで、世代戦で活躍する傾向があるようです。

ばん馬を変えた万能の品種　ベルジアン種

品種の特長
- スピードもパワーもある
- 早熟かつ晩成
- 馬場、重量を問わない
  万能タイプ



尾花栗毛が多く、脚と顔に白斑のある馬が多い

ベルジアン種の代表的な種雄馬 Vol.1

ジアンデュマレイ

1971年生　栗毛　米国産
血統登録馬数：1030頭　種雄馬登録数：88頭

1974年に十勝農協が北米から輸入した種雄馬です。1970年代は新しい馬種を模索していた時期で、同品種の名種雄馬マルゼンストロングホースも、ほぼ同時期に輸入されています。新馬種のため最初は牝馬が集まりませんでしたが、初年度からイレネー記念とナナカマド賞を制したリュウタカラを出し、一躍人気種雄馬になりました。

産駒は仕上がりが早い上に成長力もあり、古馬戦線でも活躍。６年連続で総合リーディングという輝かしい成績を残しています。世代別リーディングも複数年獲得しており、万能の種雄馬として多くの産駒を残しました。

今に伝わるジアンデュマレイの血

発展している父系は、**ニューフロンテヤ～カネサスピード～カネサブラック**、**センショウリ～フジエーカン～インフィニティー**の二つの系統です。カネサブラック、インフィニティーはともに2010年代にばんえい記念を勝った記憶に新しい名馬です。残念ながら両馬とも亡くなってしまいましたが、カネサブラック産駒からはすでに柏林賞を勝ったジェイワンが後継となり、初年度産駒からヤングチャンピオンシップ3着のジェイヒーローを出しました。今後はキングフェスタも種雄馬として期待がかかります。インフィニティーも6世代産駒を残しており、今後種雄馬になるような逸材がいます。また、2022年度の3歳世代では、**スピードフジ**産駒のクリスタルコルドとツガルノヒロイモノが大活躍しています。スピードフジの父**クリフジ**は希代の名馬オレノココロの母の父でもあり、今後の発展が楽しみな父系です。

そして、ジアンデュマレイは母の父としても大種雄馬**ダイヤテンリュウ**を送りました。（12～13ページ参照）ダイヤテンリュウ系を通じても、その血は広がっていくことと思います。ジアンデュマレイは鉄鯉との相性が良かったようで、ばんえい記念馬のニューフロンテヤの母の父は鉄鯉、先のページで紹介したようにダイヤテンリュウも鉄鯉の孫になります。

ベルジアン種の代表的な種雄馬 Vol.2

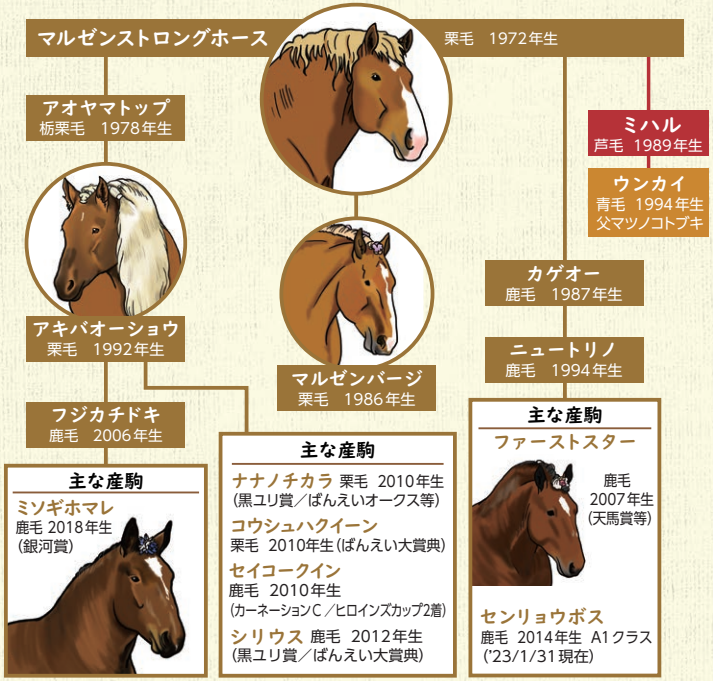
マルゼンストロングホース

1972年生　栗毛　米国産
血統登録馬数：486頭　種雄馬登録数：52頭

ジアンデユマレイと並ぶベルジアン種の名種雄馬です。サラブレッドの名馬マルゼンスキーのオーナー、橋本善吉氏が輸入したことで有名です。大成功した２頭の種雄馬は同じ牧場の出身で、ショータイプに改良される前の古風なベルジアン種で強い近親交配を持っていました。

代表産駒はばんえい記念２勝のマルゼンバージ。純血種で初のばんえい記念馬で、その後も純血種でばんえい記念を制した馬は出ていません。

今に伝わるマルゼンストロングホースの血



数年前までその父系からコンスタントに活躍馬を送っていましたが、現在、A1クラス以上の現役馬がいる父系は**アオヤマトップ**～**アキバオーショウ**と、**カゲオー**～**ニュートリノ**の二つ。アキバオーショウの父系は牧馬の活躍馬が多く、マルゼンストロングホースの父系は先細りになりつつあります。しかし、母の父として大種雄馬ウンカイを送りました。ウンカイ産駒の人気種雄馬、フジダイビクトリーとコウシュハウンカイはマルゼンストロングホースの強い近親交配を持っており、今後もその血は広まっていくことでしょう。

いいとこ取りを産駒につたえる　半血種の名種雄馬

タカラコマ

1968年生　半血種　鹿毛　網走市産
競走成績：93戦31勝 2着17回 3着5回
血統登録馬数：704頭　種雄馬登録数：50頭

ばん馬はかつて競走馬と種雄馬を分けて育成するのが主流でした。しかし、その風潮を変えた先駆者がタカラコマです。

父のケルネヴェーズはブルトン種としては非常に大きな馬で、母の宝はペルシュロン系種雄馬の産駒。父母の良い資質を受け継いだ半血のタカラコマは、雄大な馬格を持ち、競走馬としても種雄馬としても大成しました。供用期間はわずか８年間でしたが、多くの産駒を残しました。産駒の多くは本馬に似て早熟な傾向がありましたが、代表産駒のタカラフジは古馬になってばんえい記念はじめ多くの重賞を勝ち、１億円馬になっています。

今に伝わるタカラコマの血

※種雄馬の生年表記（　）は現役引退時の格付け

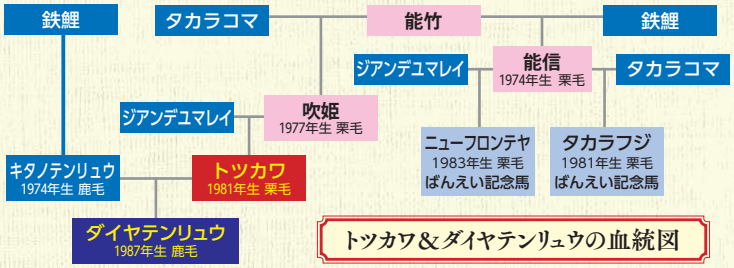
残念ながら直系は先細りの傾向にあります。イレネー記念、ポプラ賞の勝ち馬**クロタカ**から、**エビスカチドキ**～**オイドン**・**ホクショウマサル**につながる系譜が一番発展する可能性があったのですが、悲しいことにオイドンもホクショウマサルも早世して産駒を残せませんでした。直系の父系ではありませんが、クロタカ産駒の**スターシンザン**は母の父として、ネオキングダム（母：汽笛）、クイーンヴォラ＆フォルテシモ姉妹（母：スターシンナ）、アーティウィング（母：亜委）といった活躍馬を送り出しています。

名繁殖牝馬から生まれた名種雄馬

ばんえい競馬では同じ母を持つ兄弟が活躍している事例がたくさんあります。二世ロッシーニで紹介したマツノコトブキも兄ハヤホマレは重賞を12勝した名馬でしたし、ウンカイの妹アンローズは重賞10勝。カネサブラック、カネサテンリュウの兄弟もしかり。なかでも、ダイヤテンリュウの母トツカワは、ばんえい競馬界屈指の名繁殖牝馬でした。

トツカワ自身の競走成績は55戦２勝とふるいませんでしたが、その血統は素晴らしいものでした。父はジアンデユマレイ、母の父はタカラコマ。母系も素晴らしく、おばは２頭のばんえい記念馬の母です。

ダイヤテンリュウは鉄鯉＆タカラコマ＆ジアンデユマレイのコラボレーション！



トツカワ＆ダイヤテンリュウの血統図

そして血統に見合う素晴らしい繁殖成績を上げます。産駒４頭がオープン馬となり、３頭が重賞勝ち。1995年の準重賞レディースカップでは１～３着をトツカワの三姉妹で独占しファンを驚かせました。

トツカワの写真を見ると、毛色や体格などはジアンデユマレイ（ベルジアン種）の影響が強そうです。母の父タカラコマはブルトン種の父とペルシュロン系種雄馬産駒の母から生まれた馬です。トツカワには1/2ベルジアン種、1/4ブルトン種、残り1/4のうち何割かがペルシュロン種という血統構成になっています。このトツカワにキタノテンリュウ（ブルトン種3/4、ペルシュロン種1/4）を交配してダイヤテンリュウは生まれました。ダイヤテンリュウは３品種の混血により日本輓系種が生まれるプロセスを体現しているような種雄馬です。

ちなみに、現在オープンで活躍しているアアモンドグンシンはヨウテイクインの孫にあたります。（母サトミクインはヨウテイクインの産駒です）この一族は今もばんえい競馬界で輝き続けています。

トツカワ 1981年生　半血種　栗毛　豊頃町産

©NAR発行「Furlong」

トツカワの主な産駒

ダイヤテンリュウ 1987　鹿毛
（父キタノテンリュウ）
重賞10勝、年度代表馬、種雄馬

ニセコクイン 1989　栃栗毛
（父ハイスピード）重賞5勝

ヨウテイクイン 1990　鹿毛
（父ハイスピード）重賞10勝

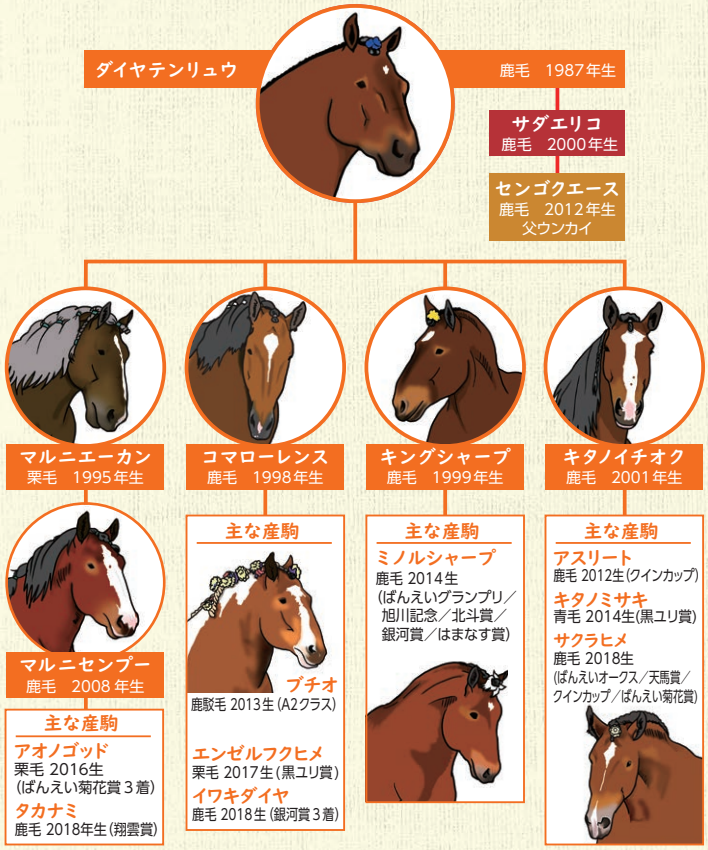
コトブキクイン 1992鹿毛
（父マツノコトブキ）ばんえいオークス2着

ダイヤテンリュウ
1987年生　半血種　鹿毛　ニセコ町産
競走成績：71戦29勝２着11回３着６回
血統登録馬数：557頭　種雄馬登録数：38頭

ダイヤテンリュウは２～５歳まで毎年重賞を勝ち、５歳時の活躍で1992年の年度代表馬に選ばれた名競走馬です。７歳で若くして種雄馬入りしました。

良血で素晴らしい競走成績、世代戦で強かった早熟性。関係者の期待にたがわず、初年度から産駒は活躍し、大差で２歳種雄馬ランキング１位を獲得。その後総合種雄馬ランキングでも６回１位に輝き、2000年代を代表する大種雄馬となりました。

広く発展しているダイヤテンリュウの血脈



多くの現役活躍馬がこの父系の出身です。また、センゴクエースの母で、重賞13勝の女傑サダエリコの父でもあります。

活躍馬たちの血統は?

トップホースのルーツをたどろう!
5代前までの父母を掲載

メムロボブサップ

メジロゴーリキ

青字：ペルシュロン種・ペルシュロン系種
赤字：ブルトン種・ブルトン系種
緑字：ベルジアン種・ベルジアン系種
黒字：半血種または日本輓系種
※系種とは75%以上特定品種の血量を持っているもの
※平成15年までは重種の混血を半血種と称しています

メムロボブサップ

二世ロッシーニとタカラコマが5代前にそれぞれ2回ずつ登場
まんべんなく3品種が交じり合った血統構成です

父母	祖父母	曾祖父母	4代父母	5代父母
ナリタボブサップ	華旭	平美	武潮	孟潮
				ヌヴエ
			姫碩	楓石
				明久
		第一旭姫	カツエイ	カチサカエ
				栄姫
			旭姫	キリン
				花姫
	龍姫	スーパージャンデイ	ジアンデユマレイ	サニーフアーサー
				マーキゼットシユープレムドフアーサー
			桜	タカラコマ
				豊勝
		共和姫	シゲノハラニセイ	二世ロッシーニ
				日光
			バービークイン	マジン
				恵進
ピュアレディ	アキバオーショウ	アオヤマトツプ	マルゼンストロングホース	コントリビユター
				ジヤネツトスプレムドフアルクール
			第一清流	ロイヤル
				清流
		梅宝	鉱梅	銅庭
				桃数
			宝姫	タカラコマ
				万博
	竹四頭姫	テンシヨウリ	キタノテンリユウ	鉄鯉
				恵雲
			初春	クルバン
				初姫
		タツミノルヒメ	タツマキ	日西
				第十一万山
			路志姫	二世ロッシーニ
				川目

メジロゴーリキ

鉄鯉が4代前と5代前1回ずつ、ジアンデユマレイが5代前に2回登場
父の母が純血ベルジアン種でもあり、ベルジアン種が多めの構成です

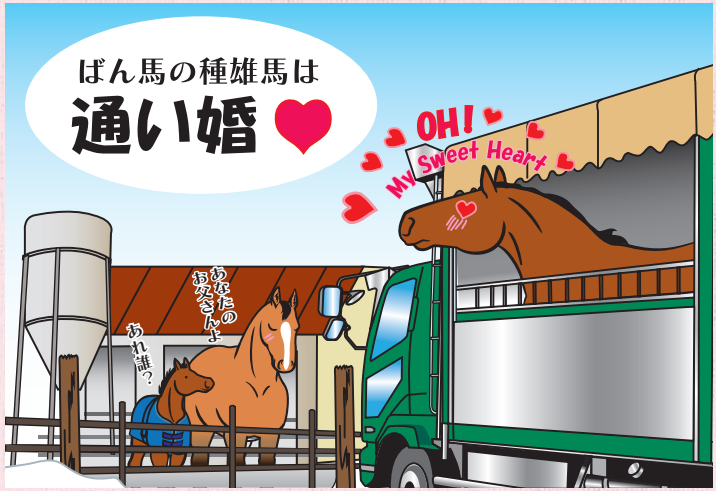
父母	祖父母	曾祖父母	4代父母	5代父母
ニシキダイジン	カゲイサム	マツイサム	鉄鯉	アンパレール
				キヤロリーヌ
			第五宝	蘭旭
				宝輝
		紀市	ボヌール	ジエルフオ
				レア
			紀川	不詳
				不詳
	ローラ	DANNY	ELEGANTDUMARAIS	不詳
				不詳
			OWENPOLLYANNA	不詳
				不詳
		LOMLOUANN	CONQUERORSFARCEUR	DIXIECONQUEROR
				MABELLOU
			BELLSEYBERT	不詳
				不詳
メジロルビー	メジロショウリ	ヒカルテンリユウ	マツノコトブキ	二世ロッシーニ
				初姫
			第二太陽	パンツバメ
				太陽
		メジロ	タカラコマ	ケルネヴエーズ
				宝
			五月姫	知染
				為姫
	シスタークイン	ダイヤテンリユウ	キタノテンリユウ	鉄鯉
				恵雲
			トツカワ	ジアンデユマレイ
				吹姫
		シスタールビー	コーネルライス	CONQUERAIS
				SIOUXRIVERSUMMER
			ミスマコト	ジアンデユマレイ
				菊姫

もっと知りたい！ 5代血統表を調べるには？

ばん馬は「日本馬事協会」の公式サイトで
5代血統表や牝系が確認できます。

https://www.bajikyo.or.jp/renkei.php

こぼれ話



ばん馬は全道で生産されており、種雄馬は地域や牧場の状況に合わせて様々なスタイルで供用されています。人気種雄馬を繋養している牧場では、繁殖牝馬を一定期間預りますし、生産頭数の多い牧場では、自前で種雄馬を繋養する場合もあります。

なかでも一番多い供用方法は巡回種付けです。繁殖牝馬のいる牧場を種雄馬がトラックで巡回して種付けをします。（なんと当て馬※も自らやる馬がほとんど！）遠方には種付けに行けないため、各地域に「ご当地種雄馬」がいるのもばん馬ならではです。ばん馬に全兄弟が多いのは、この“巡回種付け”に由来します。

※発情を促したり、発情の有無を確認するための牡馬

引退した名馬の近況がわかる！

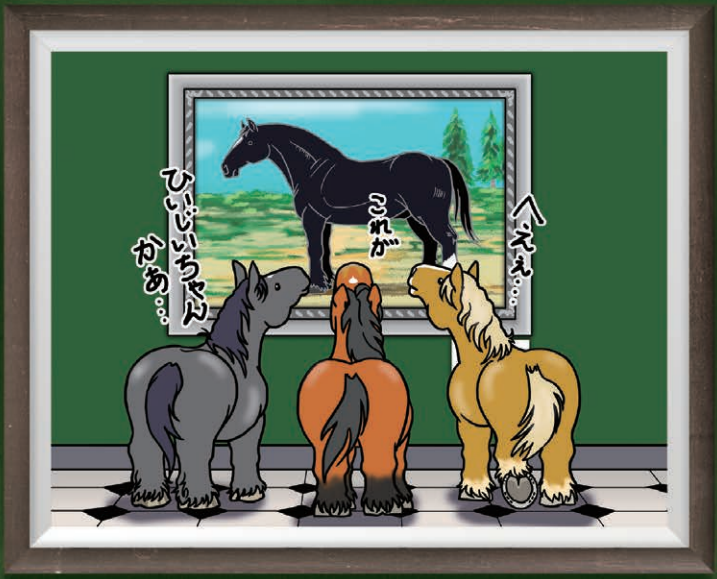
楽天競馬の地方競馬応援ブログ「ばんブロ」では、懐かしい馬たちやかわいい仔馬たちの素敵な写真や、詳細な牧場ルポが掲載されています。ぜひご一読を！

ばんブロ 検索

【参考文献と資料】
・ばんえいスタリオンズ　田島芳郎著
（地方競馬全国協会機関広報誌「Furlong」1997年5月号～1998年5月号連載）
・ばんえい競馬の仕組みと歴史（上）（下）田島芳郎著
（日本馬事協会発行「ホースメイト」No.51 ～ No.52　2007年7月・11月掲載）
・ばんえい DRAFT RACE（市営協議会会報　1971年4月　Vol.2 ～ 1989年3月　Vol.19）
・北海道種雄馬名鑑　思い出の名馬三十年史（1984年北海道輓用馬振興対策協議会）
・輓曳 これまでそして明日から ②ばんえい全盛時代　田島芳郎著
（週刊競馬ブック2007年1月28日号掲載）
・大種牡馬人気に沸くばんえい競馬～ばんえい版ノーザンテーストの蹄跡　旋丸巴著
（プーサンVol.15　2000年　初夏号）
・ばんえいまんがどくほん（1978年5月　北海道市営協議会）
・THE BANBA ばんえい十勝10周年記念誌（ばんえい十勝）
・蹄跡「つめあと」（1983年　北海道馬産史編集委員会）
・「輓系馬の体型と能力に関する調査報告書」（1994年3月　社団法人日本馬事協会）
・私設ばんえい競馬資料館　http://banei.no.coocan.jp/
・日本馬事協会　https://www.bajikyo.or.jp/index.php

血統登録馬数・種雄馬登録数：日本馬事協会の登録馬情報より集計
5代血統表：日本馬事協会の登録馬情報サイトより引用
※競走成績は2023年1月31日までのものです　写真提供：ばんえい十勝　文・イラスト：澤田 真結

鉄鯉
Tetsuri



ジアンデュマレイ
Jan du Marais

History of Banei Racehorse ～名馬のルーツを知ろう～

2023年3月18日発行
発行：帯広市農政部ばんえい振興室ばんえい振興課
〒080-0023 帯広市西13条南9丁目　TEL. 0155-34-0825
制作：MAYU'S WORKS ／ハクバオウジ株式会社